



安全な測定をするために!!

感電事故を防止して安全な測定をするために、説明書をよく読んでから本器をお使いください。特に本体および説明書で△記号のついている所は重要です。

△ この記号はIEC規格およびISO規格に定められている記号で説明書をよく読んでから本器を使ってくださいということを表しています。

△ **警告** この表示はその内容を守らずに誤った取り扱いをすると人が死亡または重傷を負う可能性があることを示しています。

△ **注意** この表示はその内容を守らずに誤った取り扱いをすると人が負傷したり物的損害を発生させる可能性があることを示しています。

警告

強電回路の測定は非常に危険です。このテスターでは、6kVA以上の強電回路は測定しないでください。強電回路(電路)にはしばしば高いサージ電圧が重畳しており、これが爆発的短絡の誘因となります。危険な回路の電圧測定では、身体のいかなる部分も回路に接触しないようご注意ください。

はじめに

このたびはカイセのデジタルマルチメーターSK-6555をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本器の十分な活用と安全な測定のため、取扱説明書はいつも手元に置きよくお読みいただいたうえでご使用ください。

1. 包装内容の確認

製品包装の中には次のものが入っています。万一欠品がありましたら、販売店からお受け取りください。

- | | |
|-----------------|----------|
| 1. デジタルマルチメーター | 1台 |
| 2. 3V CR2032 電池 | 1個(本体内蔵) |
| 3. 取扱説明書 | 1冊 |

2. 仕様

2-1. 一般仕様

- 表示板(LCD)：**
 - 数字表示：4000カウント、文字高14mm
 - 単位およびサイン：mV, V, Hz, %, Ω, kΩ, MΩ, nF, μF, \rightarrow , \rightarrow , DIFF, MAX, MIN, BAT, DH, OL, AUTO, APS, \rightarrow , \sim , $-$ および少数点
- 動作原理：**ΣΔ変換方式
- レンジ切換：**オート/マニュアルレンジ(自動/手動)
- サンプリング速度：**3回/秒
- 極性表示：**自動(“-”表示のみ点灯)
- オーバーレンジ表示：**OLが点灯(ただしLDC/AC 600Vは除く)
- ディスプレイホールド / 偏差測定(ゼロ調整)：**
 - DH/DIFFキーを0.5秒以下押す → ディスプレイホールド
 - DH/DIFFキーを1秒以上押す → 偏差測定
 - 静電容量測定時にゼロを表示しない場合 → ゼロ調整
- 最大値/最小値：** \rightarrow V、 \sim V、Ωの時にMAX/MINキーを1秒以上押すと最大値、最小値を測定
- 導通試験：**LCD上に \rightarrow サインおよび約60Ω以下でブザー。応答時間：1m sec.
- 電池消費表示：**約2.4V以下でBATサイン点灯
- 使用温・湿度：**0℃～40℃, 80%RH以下(結露のないこと)
- 保存温・湿度：**-20℃～60℃, 80%RH以下(結露のないこと)
- 電源：**3V CR2032 電池1個
- 消費電力：**4.5mW標準
- 電池耐久時間：**70時間以上の連続使用可能

- オートパワーセーブ：**各スイッチ操作後約15分で自動的に電源オフ
- 耐電圧：**3.7kV 1分間(入力端子とケース間)
- 過負荷保護：**
 - V：最大900V DC または AC RMS(1分間) ※ただし400mVレンジは600V RMS
 - Ω / \rightarrow / \rightarrow / \rightarrow / \rightarrow ：最大300V RMS(1分間)
- 安全基準：**CEマーク認証 IEC-61010-1, CAT III 300V, CAT II 600VおよびEMCテスト合格
- 寸法・重量：**118×78×16mm、110g
- 付属品：**テストリード付き、電池内蔵、取扱説明書
- 別売付属品：**940ワニグチクリップ

2-2. 測定仕様 (23℃±5℃、80%RH以下、ただし結露のないこと)

1. 直流電圧 (\rightarrow V)

レンジ	測定精度	分解能	入力抵抗	最大許容値	過負荷保護
400.0mV	±0.5%rdg±3dgt	100μV	≥100MΩ	600V DC	900V rms 1分間
4.000V		1mV	≈11MΩ		
40.00V	10mV	≈10MΩ			
400.0V	100mV				
600V	±1.0%rdg±3dgt	1V			

2. 交流電圧 (\sim V)

レンジ	測定精度	分解能	入力抵抗	最大許容値	過負荷保護
4.000V	±1.5%rdg±5dgt	1mV	≈11MΩ	600V rms	900V rms 1分間
40.00V		10mV	≈10MΩ		
400.0V		100mV			
600V		1V			

周波数特性：50Hz～400Hz

3. 周波数 (Hz)

レンジ	測定精度	分解能	入力感度	最大許容値
1.000Hz～100.0kHz	±0.2%rdg±2dgt	0.001Hz～100Hz	10kHz以下：3V rms 10kHz以上：規定せず	300V rms

4. デューティー比 (%)

レンジ	測定精度 (1Hz～1kHz)	分解能	入力感度	最大許容値
0.0%～99.9%	±0.5%rdg±5dgt	0.1%	3V rms	300V rms

5. 抵抗 (Ω)

レンジ	測定精度	分解能	試験電流	開放電圧	過負荷保護	
400.0Ω	±1.5%rdg±4dgt	0.1Ω	≤0.2mA	約0.44V	300V rms	
4.000kΩ		1Ω	≤50μA			
40.00kΩ		±1.0%rdg±3dgt	10Ω			≤5μA
400.0kΩ		100Ω	≤0.5μA			
4.000MΩ	±3.0%rdg±3dgt	1kΩ	≤50nA			
40.00MΩ	±7.0%rdg±3dgt	10kΩ				

6. 導通試験 (\rightarrow)

レンジ	ブザー抵抗	応答時間	開放端子間電圧	過負荷保護
400.0Ω	約60Ω以下	約1m sec.	約0.44V	300V rms

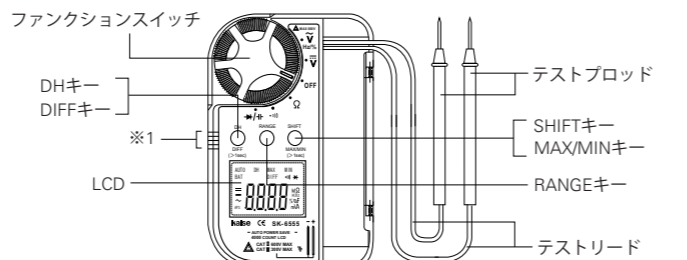
7. ダイオードテスト (\rightarrow)

レンジ	測定精度	試験電流	開放端子間電圧	過負荷保護
1.000V	±5.0%rdg±3dgt	≤0.7mA	≤1.7V	300V rms

8. 静電容量 (\rightarrow)

レンジ	測定精度	分解能	試験電圧	過負荷保護
50.00nF	±5.0%rdg±10dgt	10pF	≤1.7V	300V rms 1分間
500.0nF		100pF		
5.000μF		1nF		
50.00μF		10nF		
100.0μF		100nF		

3. 各部の名称と説明



※1 ケースカバーを開ける時は、ここを押してください。

図-1

3-1. 表示板(LCD)

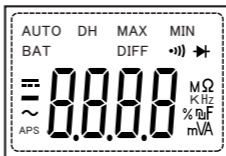


図-2

\rightarrow ：	直流のサイン	MAX/MIN：	最大値、最小値
\sim ：	交流のサイン	\rightarrow ：	導通試験
$-$ ：	極性がマイナス(+表示なし)	\rightarrow ：	ダイオードテスト
APS：	オートパワーセーブ	mV, V	電圧測定の単位
AUTO：	オートレンジ	Hz, kHz	周波数
BAT：	電池が消耗した時点灯	%	デューティー比
DH：	表示固定	Ω, kΩ, MΩ	抵抗測定の単位
DIFF：	偏差測定	nF, μF	静電容量の単位

3-2. ファンクションスイッチ

電源および各機能選択用のスイッチです。それぞれの位置で直流電圧、交流電圧、抵抗、導通、ダイオード、静電容量を測定します。測定終了後は必ずOFFにしてください。

3-3. SHIFT キー(機能切替)

このキーを押すと、各測定要素が次のように切り替わります。

\rightarrow / \sim V： \rightarrow V or \sim V → Hz → % → \rightarrow V or \sim V →
 \rightarrow / \rightarrow ： \rightarrow → \rightarrow → \rightarrow →

3-4. MAX/MIN キー

\rightarrow V、 \sim V、Ωの時にこのキーを1秒以上押すと、LCD上にMAX、MINが表示され、最大値/最小値が測定できます。ただし、レンジは固定されます。このキーを0.5秒以下押す度に、MAX MIN→MAX→MIN→MAX MIN...と変化します。このキーを1秒以上押すと、MAX MINサインが消えてこの機能が解除されます。

3-5. RANGE キー

交流、直流電圧、抵抗、静電容量測定の際にこのキーを押すと、AUTOサインが消えてレンジが固定されます。レンジの選択には、次の3つの方法があります。

- 測定していない状態で、レンジキーを何度か押して、小数点の位置を見て必要なレンジを選びます。
- オートレンジで測定している時にレンジキーを押します。その時の測定値に見合ったレンジが固定されます。
- レンジホールドからオートレンジに戻すには、レンジキーを1秒以上押すか、またはファンクションスイッチを動かして再度設定します。オートレンジに戻るとAUTOサインが再び点灯します。

3-6. DH(ディスプレイホールド、表示固定)キー

このキーを(0.5秒以下)押すと、DHが点灯して測定値が固定されます。もう一度押すと解除されます。

3-7. DIFF キー

a：偏差測定

Hz、%以外の測定中にこのキーを1秒以上押すと、DIFFが点灯し、その時の測定値(入力値)Xoを記憶し、0±1デジット以下を表示します。その後の測定値Xnは、基準値Xoからの偏差値(Xn-Xo)として表示されます。

b：ゼロ調整(DIFFと同じ機能)

\rightarrow (静電容量)測定時にゼロを表示しない時は、ゼロ調整のために使います。このキーを1秒以上押すと、DIFFサインが消えてこの機能が解除されます。

4. 安全測定と使用上の注意

4-1. 電気事故の防止

人体への感電事故防止とテスターの焼損防止のため、次の事項をよく理解し厳守して安全な測定をしてください。

1. テスター本体とテストリードのチェック

△ **警告：**測定前に本体ケースに割れや濡れがないか点検のうえ、常にきれいにして乾いた状態でご使用ください。テストリードに断線や絶縁不良がないか充分に確認してください。

2. 強電回路測定の禁止

△ **警告：**強電回路(大型モーター、配電用トランス、ブスバー等への電気容量の大きい工場内外の動力線等)の測定は危険です。本器では6kVA以上の強電回路の測定はしないでください。一般的には、交流電圧で30V、直流電圧で42.4Vを超える電圧がかかっており、その部分からアースへ流れる電流が0.5mAを超えると感電事故を起こす危険があります。

3. 弱電の高電圧回路測定についての警告

△ **警告：**弱電回路(家電製品や電子機器の回路で電気容量の小さい回路)でも、高電圧回路(100V以上)は危険です。感電の恐れがあるため活線部分には触れないよう充分ご注意ください。

4. 弱電の高電圧回路の測定手順の厳守

△ **警告：**測定する場合には、必ず次の手順を守り安全に測定してください。

- 測定する前に、測定しようとする回路の電源を必ず切ります。
- ファンクションスイッチを \rightarrow または \sim の位置に合わせます。
- 黒色および赤色テストブロードの先端に黒・赤のワニグチクリップ(別売)を付けます。
- 測定回路の電源が切られていることを確認してから、アース(-)側に黒色ワニグチクリップを、高電位(+)側に赤色ワニグチクリップを接続します。
- テスター本体は手に持たずに身体から離して置きます。測定しようとする電源や回路に手や身体の一部が触れないように、またテストリードにも触れないように充分距離をとります。
- 測定しようとする回路の電源を入れます。テスターのLCD上で表示値を読み取ります。
- 測定している回路の電源を切ります。テスターの表示値がゼロになった事を確認してから、赤黒のワニグチクリップ(テストブロード)を測定回路から外します。

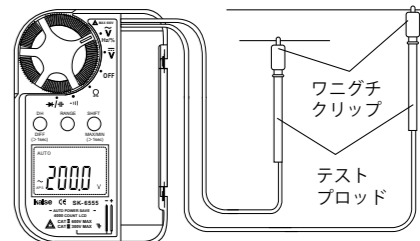


図-3

やむを得ず活線(電圧のかかっている回路)を測定する場合は、以下の注意事項を厳守してください。(図-4参照)

- テスター本体は手に持たず身体から離して置きます。
- ファンクションスイッチを \rightarrow または \sim の位置に合わせます。
- 黒色テストブロードの先端に黒色ワニグチクリップを付けて、測定しようとする回路のアース(-)側に接続します。
- 回路(電源)から充分距離を取り、身体のいかなる部分も回路に触っていないことを確認します。
- 赤色のテストブロード一本だけを片手に持って、測定しようとする回路の高電位(+)側に接触してLCD上で表示値を読み取ります。
- 測定が終了したら、赤色のテストブロードを測定回路から外し、次に黒色ワニグチクリップを測定回路から外します。

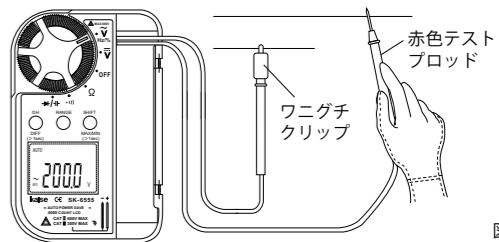


図-4

品質保証書

MODEL SK-6555	Serial No.		
品質保証期間	購入日	年 月	日から1カ年
販売代理店および所在地			
印			

※ 品質保証期間中に正常な使用状態で、万一故障等が生じた場合は、裏面記載の品質保証規定により無償で修理いたします。製品にこの品質保証書を添えて、上記販売代理店、または直接カイセ株式会社製造サービス係へご送付ください。

※ 購入年月日は販売代理店が記入します。販売代理店名およびその押印なき品質保証書は無効となりますので、購入時に確認してください。

カイセ株式会社

〒386-0156 長野県上田市林之郷422 電話 0268-35-1600 (代表)

4-2. テスターの故障防止

1. ファンクションスイッチの設定

⚠ 警告：測定時にはファンクションスイッチが正しい位置に設定されているか確認してください。特にΩ(抵抗)、 \curvearrowright (導通試験)、 \blacktriangleright (ダイオード)の位置で、電圧を測定しないでください。

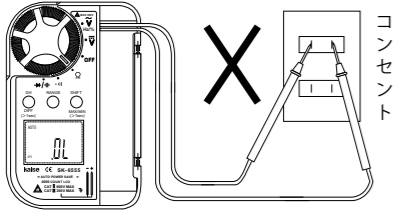


図-5

2. 最大許容入力値の厳守

⚠ 警告：各ファンクションでは、測定仕様に記載されている最大許容入力値を超えた測定をしないでください。

3. テストリードの取り外し

⚠ 警告：測定中にファンクションスイッチを回す時や電池交換時にバッテリーカバーを開ける時は、必ず事前にテストリードを測定回路から外してください。

4-3. 取り扱い上の注意

⚠ 警告1：電気測定の知識と経験のない人および子供には使用させないでください。

⚠ 警告2：裸足や上半身裸での電気測定は危険です。感電事故の危険があります。

⚠ 警告3：テストリードの先端は尖っており大変危険です。目などに刺さらないようご注意ください。

⚠ 注意1：本器の構造は精密です。強い振動や衝撃を与えず、車中や高温多湿な場所での使用および保管は避けてください。

⚠ 注意2：本器をこすったり、ベンジン、アルコール等溶剤で拭かないでください。

⚠ 注意3：本器を長期間使用しない時は電池を取り外してください。消耗した電池を内蔵したまま放置すると、電解液が漏出して内部を腐食することがあります。

⚠ 注意4：ケースカバーを開ける時は、フロントケース横側中央部(ギザギザ部分)を押して開けてください。

5. 測定方法

5-1. 測定準備

1. 取扱説明書の精読 **⚠**

本器の測定仕様と機能を充分理解し「4. 安全測定と使用上の注意」をよく読んで安全な測定をしてください。

2. 電池

本器は3V CR2032ボタン電池1個を内蔵しています。電池電圧が規定値以下になると、LCDにBATサインが点灯します。この時は「6-1.電池の交換」を参照して電池を交換してください。

3. テストリード・テストブロード

黒・赤のテストブロードをケースから取り出して、測定しようとする電源、回路等に接続して測定します。一般に、黒色のテストリードを一極、赤色のテストリードを＋極として使用しています。

⚠ 注意：テストブロード収納時は、リード線を本体に巻いてください。テストブロードやリード線がケースからはみ出している状態で無理にフロントカバーをしめると、フロントカバーが外れることがあります。

4. オーバーレンジ表示

各ファンクション(電気要素)の測定において、使用レンジの最大値(4000デジット)を超える入力があるとOLサインが点灯します。ただし、600Vレンジでは表示しませんので、入力オーバーしないようご注意ください。

5. オートパワーセーブ

ファンクションスイッチ、DHキー、またはRANGEキーの操作後約15分で自動的に表示が消えて電源オフ状態になります。

注：オートパワーセーブ中もわずかに電力を消費します(0.01mW程度)。電池の消耗を防ぐため、測定終了後は必ずファンクションスイッチをOFFにしてください。

解除：シフトキーを押しながらファンクションスイッチを回して電源を入れます。

6. シンボルマーク

このテスターまたは取扱説明書に表示されている次のシンボルは、国際規格のIEC-61010-1およびISO3864に規定されている記号です。

	警告または注意記号で 説明書をよく読んでください ということを表しています。		
	直流(DC)		交流(AC)
	アース(グラウンド)		二重絶縁

5-2. 直流電圧測定 (\overline{V} → Hz → %)

	警告
● 直流電圧の最大測定値は600Vです。感電事故およびテスターの焼損防止のため、600Vを超える電圧は測定しないでください。600V以下でも電気容量が6kVA以上の強電回路は危険ですので測定しないでください。	
● 感電事故および本器の焼損防止のため「4. 安全測定と使用上の注意」をよく読んで測定してください。	

- ファンクションスイッチを \overline{V} に合わせます。 \overline{V} サインがLCDに点灯します。
注：この時入力がないのに意味のない数字を表示するのは、テスターの内部抵抗が高く周囲のノイズを拾うために起こる現象です。故障ではありません。
- 測定しようとする回路のアース側(-)に黒色テストブロードを、高電位側(+)に赤色テストブロードを接続します。
注：電圧測定では、本器を回路(電源)と**並列**に接続します。
注：危険性のある回路では、安全のためテストブロードの先端にワニグチクリップ(別売)を付けて測定してください。
- 測定値をLCD上で読み取ります。
- SHIFTキーを押すと、Hz、%の測定ができます。必要に応じて、DHキー、DIFFキー、RANGEキー、MAX/MINキーが使えます。
- 測定が終了後は、赤黒のテストブロードを測定回路から外し、ファンクションスイッチをOFFにします。

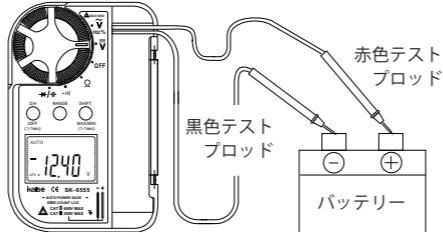


図-6

5-3. 交流電圧測定 (\tilde{V} → Hz → %)

	警告
● 交流電圧の最大測定値は600Vです。感電事故およびテスターの焼損防止のため、600Vを超える電圧は測定しないでください。600V以下でも電気容量が6kVA以上の強電回路は危険ですので測定しないでください。	
● 感電事故および本器の焼損防止のため「4. 安全測定と使用上の注意」をよく読んで測定してください。	

- ファンクションスイッチを \tilde{V} に合わせます。 \tilde{V} サインがLCDに点灯します。
注：この時入力がないのに意味のない数字を表示するのは、テスターの内部抵抗が高く周囲のノイズを拾うために起こる現象です。故障ではありません。
- 測定しようとする回路のアース側(-)に黒色テストブロードを、高電位側(+)に赤色テストブロードを接続します。
注：電圧測定では、本器を回路(電源)と**並列**に接続します。
注：危険性のある回路では、安全のためテストブロードの先端にワニグチクリップ(別売)を付けて測定してください。
- 測定値をLCD上で読み取ります。
- SHIFTキーを押すと、Hz、%の測定ができます。必要に応じて、DHキー、DIFFキー、RANGEキー、MAX/MINキーが使えます。
- 測定終了後は、赤黒のテストブロードを測定回路から外し、ファンクションスイッチをOFFにします。

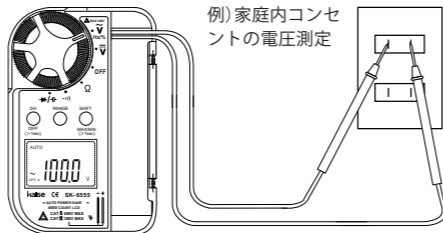


図-7

5-4. 抵抗測定 (Ω)

	警告
● 測定前にファンクションスイッチが正しく設定されているか確認してください。	
● 抵抗測定レンジで電圧を測定しないでください。感電事故や本器の焼損につながる恐れがあります。	
● 回路内の抵抗器を測定する時は、必ず回路の電源を切り、コンデンサーを放電してから測定してください。	
● 感電事故および本器の焼損防止のため「4. 安全測定と使用上の注意」をよく読んで測定してください。	

- ファンクションスイッチをΩに合わせます。LCD上にOL、MΩが点灯します。
- 回路に接続している抵抗器を測定する時は、回路の電源を切り、コンデンサーを放電します。
- 測定する抵抗器の片側を回路から外し、両端にテストブロードを接続します。
- 測定値をLCD上で読み取ります。
- 必要に応じて、DHキー、DIFFキー、RANGEキー、MAX/MINキーが使えます。
- 測定終了後は、ファンクションスイッチをOFFにします。

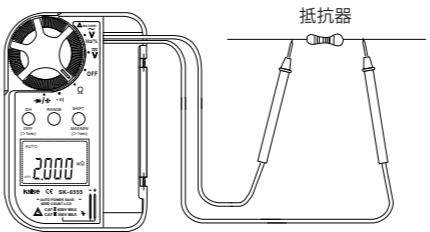


図-8

5-5. 導通試験 (\curvearrowright)

	警告
● 測定前にファンクションスイッチが正しく設定されているか確認してください。	
● 導通試験レンジで電圧を測定しないでください。感電事故や本器の焼損につながる恐れがあります。	
● 回路内の導通を試験する時は、必ず回路の電源を切り、コンデンサーを放電してから測定してください。	
● 感電事故および本器の焼損防止のため「4. 安全測定と使用上の注意」をよく読んで測定してください。	

- ファンクションスイッチを \curvearrowright に合わせます。LCDに \curvearrowright サインが点灯します。
- 回路内の導通を試験する時は、回路の電源を切り、コンデンサーを放電します。
- 測定しようとする回路の両端にテストブロードを当てます。コードの断線を調べる場合は、コードの先端のプラグとソケットの同じ線側にテストブロードを当てます。
- 抵抗値が約60Ω以下であれば、抵抗値を表示し、導通を知らせるブザーが鳴ります。ブザーが鳴らない時は、断線か、または抵抗値が60Ω以上ある時です。
- 測定終了後は、ファンクションスイッチをOFFにします。

5-6. ダイオードテスト (\blacktriangleright)

	警告
● 測定前にファンクションスイッチが正しく設定されているか確認してください。	
● ダイオードテストレンジで電圧を測定しないでください。感電事故や本器の焼損につながる恐れがあります。	
● 回路内のダイオードをテストする時は、必ず回路の電源を切り、コンデンサーを放電してから測定してください。	
● 感電事故および本器の焼損防止のため「4. 安全測定と使用上の注意」をよく読んで測定してください。	

- ファンクションスイッチを \blacktriangleright に合わせます。LCDに \blacktriangleright サインが点灯します。
- 回路内のダイオードをテストする時は、回路の電源を切り、コンデンサーを放電した後ダイオードの片側を外します。
- 黒色テストブロードをダイオードのアノード側に、赤色テストブロードをカソード側に接続します(逆方向接続)。LCDに"OL"と表示されていることを確認します。
- テストブロードを4.と逆に接続します(順方向接続)。この時LCDに以下の数値が表示されれば正常です。
 - シリコンダイオード：0.4V～0.7V
 - ゲルマニウムダイオード：0.1V～0.4V
- 測定終了後は、ファンクションスイッチをOFFにします。

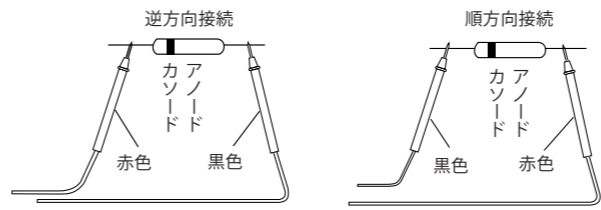


図-9

5-7. 静電容量測定 (⇄)

	警告
● 測定前にファンクションスイッチが正しく設定されているか確認してください。	
● 静電容量測定レンジで電圧を測定しないでください。感電事故や本器の焼損につながる恐れがあります。	
● 回路内のコンデンサーを測定する時は、必ず回路の電源を切り、コンデンサーを放電してから測定してください。	
● 感電事故および本器の焼損防止のため「4. 安全測定と使用上の注意」をよく読んで測定してください。	

- ファンクションスイッチを \blacktriangleright に合わせます。LCDにOL、 \blacktriangleright Vが点灯します。
- SHIFTキーを1度押して、LCD上に0.00nFを点灯させます。表示が0.00nF±3nF以下にならない時は、DIFFキーを1秒以上押します。
- 回路内のコンデンサーを測定する時は、回路の電源を切り、コンデンサーを放電した後、測定するコンデンサーの片側を外します。
- コンデンサーの両端にテストブロードを接続し、測定値をLCDで読み取ります。
注：測定する静電容量が大きいと測定時間が長くなります。
- 必要に応じて、DHキー、DIFFキーが使えます。
- 測定終了後は、ファンクションスイッチをOFFにします。

6. 保守管理

6-1. 電池の交換

	警告
● 感電事故防止のため、測定を終了してから電池を交換してください。	
● テストブロードは測定回路から外し、ファンクションスイッチは必ずOFFにしてください。	

電池が消耗してLCDにBATが点灯したら、次の手順で電池を交換してください。

- バッテリーカバーの上のネジを外します。上下のへこみに指を当てOPEN印の位置までまわし、バッテリーカバーを外します。
- 新しい3V CR2032電池を+(プラス)側を上にして電池ケースに設置します。
- バッテリーカバーを当て、押しながらLOCK●の位置まで回し、ネジを締めます。

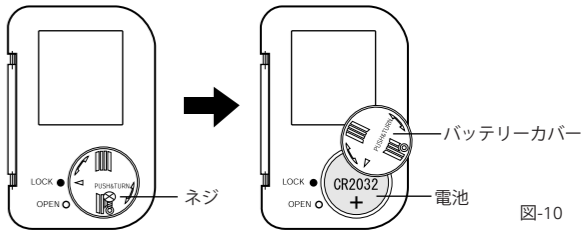


図-10

注：本器を長期間使用しない場合は電池を取り外してください。消耗した電池を内蔵したまま放置すると電解液が漏出して内部を腐食することがあります。
注：製品内蔵の電池は検査用電池です。新品に比べて早く消耗することがありますのでご了承ください。

6-2. 定期的点検・校正

安全で正確な測定を維持するためには定期的な点検・校正が必要です。本器は通常の使用で1年以上許容誤差内の精度を維持できるよう製造されていますが、少なくとも1年に1回は定期的に点検・校正してください。点検・校正は製造元へ依頼されるのが確実な方法です。

6-3. 修理

本器が正常な動作をせず修理を依頼される場合には、事前に次の点検をしてください。

- 電池が消耗していないか。(消耗するとLCDに"BAT"サイン点灯)
 - 電池が接触不良になっていないか。間違った極性で設置されていないか。
 - 測定にあたり、各スイッチが正しく設定されているか。
 - 測定入力为本器の規定レンジおよび最大許容入力以内であるか。
 - 使用環境内における測定精度であるか。
 - 本器本体およびテストリードにひび、割れ、断線など損傷がないか。
 - 測定対象の電気・電子機器や本器の使用環境に強いノイズが発生していないか。
- 以上の点検を通して故障であることが確認できたら修理を依頼してください。修理は販売元へ依頼されても結構ですが、弊社の製造サービス係にて直送されますと修理期間も短縮されます。直送される場合は、品質保証書に購入年月日、販売代理店名および所在地が記入されているか確認し、または購入時のレシートを添え、「修理依頼」に故障の症状と原因を記入し、切り離して修理品と一緒に送ってください。この品質保証書の添付がないと修理はお届けできませんのでご了承ください。返送小包には「修理品在中」と記し、住所、氏名、電話番号も忘れずに明記してください。修理完了後に代金引換小包にて返送いたします。

カイセ株式会社 製造サービス係

〒386-0156 長野県上田市林之郷422
TEL(0268) 35-1602 / FAX(0268) 35-5515
E-mail: service@kaise.com http://www.kaise.com

製品の仕様や外観は改良などのため予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

品質保証規定	
品質保証期間中に説明書に則った正しい使用状態において、万一故障が生じた場合には無償で修理いたします。ただし、下記事項に該当する故障・破損は無償修理の対象から除外し、有償修理となります。	
記	
1. 取扱説明書に基づかない不適当な取り扱い、または使用による故障。	
2. カイセ特約サービス代理店、または当社サービス部門以外でなされた修理または改造に起因する故障。	
3. お買い上げ後の輸送または落下等によって生じた故障。	
4. 火災、水害、地震等天災地変によって生じた故障・破損。	
5. 消耗部品(電池等)の補充または取り換え。	
6. 品質保証書の提出がない場合。	
7. その他、当社の責任とみなされない故障。	
修理依頼	
故障の症状 故障の原因 (わかったら)	